



たいしも通信

シリーズ第 14 回目となる今回は、下関周辺の旧軍飛行場(後編)をお送りします。前回のおさらいとして、県内には大戦中から現在まで使用されている小月、防府、岩国以外にも、下関には要塞もあつたのだから、他にも飛行場があつたのでは、と調べてみました。残念ながら市内には無く、代わりに美祢市、山口市、岩国市の陸上飛行場、そして長門市の水上飛行場が見つかりました。

◆陸上飛行場

昭和 20 年の沖繩戦終了後に本土決戦が現実味を帯びてきた中、海軍は航空特攻兵力温存のため、全国各地に飛行場を建設して分散秘匿に努めることにしました。既設の主要飛行場は空襲で被害を受けていたので、新たに作る飛行場は目立たないよう山間部に設けたり、耕作地に偽装するなどの工夫が施されました。これら「秘密航空基地」は「牧場」と名付けられ、近隣住民が駆り出されて滑走路建設に従事しました。しかし本土決戦前に終戦となつたため、これらが本来用途で使用されることはありませんでした。突貫工事で作られたこれらの滑走路は長さが短く、しかも山あいには設けられていたため離着陸は非常に難しかったです。

なお海軍では、秘密航空基地に対して「第〇〇〇基地」と3桁番号を付与し、地名から取った「〇〇牧場」と名付けていましたが、陸軍では同様の用途の飛行場を「秘匿飛行場」と呼んでいました。

●美祢市 赤郷

公式名称は第 633 基地、当時の設営日誌には「赤郷秘密航空基地」と記載されています。地元では地名をとつて三本木飛行場などと呼ばれていました。場所は美祢市東部の赤郷、景清洞の東側、県道 28 号線と重なる部分もありますが、滑走路がそのまま道路に変化したのではないようです。遺構は残っていませんが、少し南の

「赤郷見聞」と題された案内板には飛行場跡の表記があります。

●山口市 小鯖

公式名称は第 632 基地、小鯖牧場とも呼ばれています。場所は山口市南部の小鯖、国道 262 号線と平行に設置されていたようです。こちらには遺構はもちろん案内板もありません。

●岩国市 城山

公式名称は第 631 飛行場、城山飛行場は岩国市多田にあり、別名藤河牧場(藤河飛行場)とも呼ばれています。中国地方最大の海軍航空基地、岩国基地のために造られた 2 つの秘匿飛行場のうちの 1 つで、岩国飛行場の西南西約 7.5 km の錦川左岸にあり、少し下流には錦帯橋があります。地形的に非常に降りにくい滑走路で、編隊長クラスが空輸していたという話もあります。ちなみにもう 1 つは国安牧場(可部基地)で、こちらは現在何かと有名になった広島県安芸高田市になります。

◆水上飛行場／●長門市 大浦

長門市大浦には水上飛行場が設けられました。こちらは秘密航空基地ではありません。戦前から油谷湾に度々来ていた艦載水上機が仮の宿泊地としていたものが、後年本格的な基地として認可・整備されたようです。場所は日本海に突き出す向津具半島の西端に位置し、陸上滑走路建造の話もあつたようですが、実現には至りませんでした。現在も滑走台(すべり)、兵舎跡等が残っています。いずれも遺構としてではなく、戦後再利用された個人の所有物となっています。

▼編集後記▲▲

秘密航空基地は、周辺住民を総動員し、突貫工事で約 1 か月という恐ろしい速さで建設されました。基本的な使用目的は離陸のみ、もちろん路面は砂利敷です。

例によって、内容に関する責任は全て支部長にあり、特に規則等に定めてあるもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。